

日本YMCA同盟

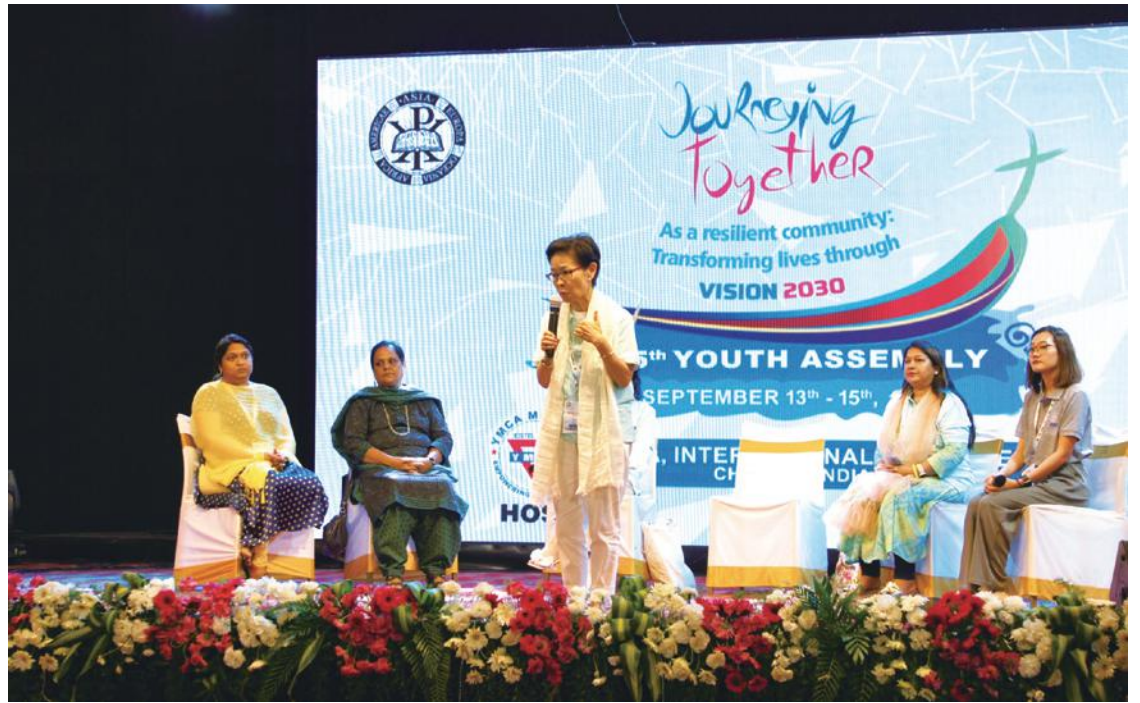
THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No. 831 2023

2023年11月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



アジア・太平洋YMCA大会で語る岡戸良子さん

OPINION

“ジェンダー平等”の実現へ向けて

「第21回アジア・太平洋YMCA大会」報告

2019-2023アジア・太平洋YMCA同盟理事 岡戸 良子 おかど ながこ

9月15日から20日、インドのチェンナイで「第21回アジア・太平洋YMCA同盟 (APAY) 大会」が開催され、21の国と地域から344人が参加しました。13日から15日には、30歳以下を対象とした「ユース・アッセムブリー」と「ジェンダー平等フォーラム」の2つが開催され、ユース・アッセムブリーには日本から26人が参加。積極的に意見交換などを行う姿はとても頼もしく、日本のユースエンパワメントをアピールしました。

「ジェンダー平等フォーラム」は今回で2回目の開催でしたが、その発題をもとに「ジェンダー正義に対する文書 (Gender Justice Policy)」が採択されたことは、アジア・太平洋地域のジェンダーを考える上でとても大きな進歩でした。(=下枠)

私は2015年～2018年の4年間、APAYのジェンダー委員会の委員長を務めたのですが、アジア・太平洋地域の女性・子どもの人権は各地の歴史・文化背景によって大きく異なり、そこに起きている不都合な事実をたくさん目の当たりにしました。そのたびに世界YMCA同盟の「チャレンジ21」を振り返り、「青年と女性がより大きな責任をもち、指導的役割を果たし」ていくにはどうしたらいいか、研修やワークショップなどを開催したことを思い出します。

ちなみに第1回ジェンダー平等フォーラムは2007年、日本で神戸YMCAの主管で開催され、アジア・太平洋地域のYMCAのジェンダー・人権・移住労働者について討議されました。日本のジェンダーに関するスタンスは、アジア・太平洋地域の中でかなり高く期待されていることもお伝えいたします。

大会には、世界YMCA同盟総主事カルロス・サンヴィー氏も出席。今回の大会テーマに掲げられた世界共通の「Vision2030」に向かって、一層の呼びかけがありました。私は2018年～2022年、APAYの理事と同時に世界YMCA同盟の常務委員も担わせていただき、このビジョンの策定にも関わってきました。コロナ禍の中オンラインの委員会で、「120の国と地域に繋がっているYMCAは、将来を見据えてもっと強くなれる」「各国のYMCAが一つのベクトルに向かい、変革の灯をかかげていこう」と、カルロス総主事はじめ各委員と気持ちを共有しながら歩んだ経験は貴重なものでした。

私は今回の大会で任期満了となりましたが、この8年間におよぶAPAY理事、そして世界YMCA同盟の常務員としての活動は、まさに多文化共生共創社会を肌で感じるものでした。YMCA運動に連なるボランティアの一人として豊かな経験をさせていただき、また世界の素晴らしい方々に繋がることのできたことは、まさに「みつかる。つながる。よくなっていく。」を実体験させていただいたと思います。貴重な役割を担わせていただいたことに感謝しています。

(日本YMCA同盟常議員／横浜YMCA常議員)

「ジェンダー正義に対する文書 (Gender Justice Policy)」 要旨抜粋

*第21回APAY大会採択

- 私たちは、YMCAのあらゆるレベルの意思決定に女性が参画することが、包摂的で公平な世界の創造に必要であると確認します。
- 私たちは今後、すべての大会で「ジェンダー平等フォーラム」を開催し、ジェンダーに関連する諸問題について議論し、気運を高めていくことを提案します。
- 私たちは、YMCAのすべてのプログラムや会議において、若者、女性、男性、LGBTQのメンバーのバランスのとれた参加を推奨します。

●全国のYMCAのさまざまな活動はこちらからもご覧いただけます。 <https://www.ymcajapan.org/>

第21回 アジア・太平洋YMCA大会 インド・チェンナイに 21の国と地域から344人



大会ロゴは、南インドの伝統的な不沈船「Kattumaram」をデザインしたもので、あらゆる困難を乗り越えるレジリエント（回復力）のあるコミュニティとして、Vision2030に向かって共に旅をしようというメッセージがこめられている。

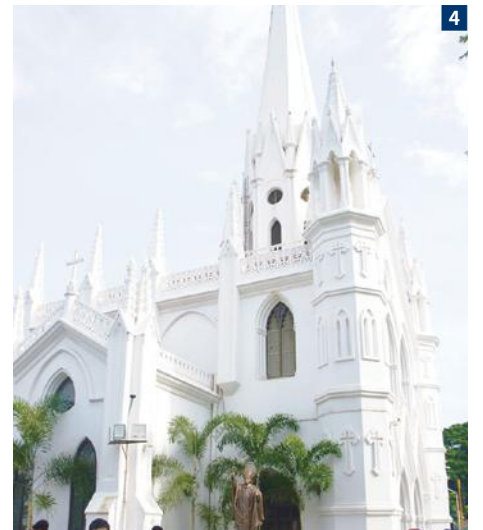
4年に一度開催される「アジア・太平洋YMCA (APAY) 大会」が9月15日～9月20日、インドのチェンナイ（旧マドラス）で開催されました。大会テーマは「回復力のあるコミュニティとして共に歩む～Vision2030を通しての生き方の変革」。21の国と地域から344人、日本からは45人が参加し、前回2019年に日本で開催された第20回大会以降の4年間を振り返るとともに、コロナで会えなかった仲間たちとの親交を深め、世界のYMCAと手を携えて「Vision2030」に取り組んでいくことが確認されました。

大会に先立ち9月13日～15日には、30歳以下を対象とした「ユース・アセンブリー」が開催されて約130人が参加したほか、「ジェンダー平等フォーラム」も行われ、ジェンダー正義に関する文書が出されました。（＝1面）

15日からの「大会（ジェネラル・アセンブリー）」は、メルボルン神学大学教授モニカ・メランジョンさんによる基調講演でスタート。聖書のサムエル記に登場するリズバという女性の物語を引用し「コロナ後のYMCAが回復力を高めて運動を継続していくためには、信頼できる人間関係と信念、柔軟性が欠かせない」とのメッセージが語られました。世界YMCA同盟のカルロス・サンヴィー総主事も参加し、世界で取り組み始めた「Vision2030」への参画を呼びかけました。

大会ではまた、4年に一度の役員改選も行われ、これまでAPAYの理事を務めた岡戸良子さん（＝1面OPINION）に替わり、次期の会計担当理事として山本俊正さん（日本YMCA同盟常議員）が選出されました。山本さんは元東京YMCA主事で、その後牧師となり、日本キリスト教協議会総主事や関西学院大学教授などを歴任。活躍が期待されています。新会長にはマレーシアYMCA推薦のフィリップ・トーマス氏が就任。引き続きAPAYのナム・ブーウォン総主事のもと、次期4年の船出が始まります。

久しぶりの対面での大会で会場中が盛りあがった一方で、体調を崩し一部のプログラムに参加できず残念な思いをした参加者もいましたが、貴重な経験をしたとの報告が寄せられています。感想を聞きましたのでご紹介します。



1「Vision2030」について語る世界YMCA総主事カルロス・サンヴィー氏 2 ユース・アセンブリーで発表する金田和夫さん（日本YMCA同盟インターン） 3 カルチュラル・ナイトでは、インドの伝統舞踊から歌、ヒップホップダンスなど、各国による楽しいショーが披露された 4 <教会>インドはクリスチャン人口約2%。80%がヒンズー教徒。その中でYMCAは、キリスト教を「一つの価値」として位置づけ、超教派で活動している 5 市内見学の二コマ。チェンナイには、7～8kmにわたるインド第2位の広大な砂浜があることから、YMCAでは水上安全活動が盛んで、レスキュー隊を配置し、啓発ポスターの製作などもしている 6 会場ボランティアとして活躍したインドの「フィジカル・エデュケーションスクール」の学生たち。日本のYMCAの専門学校生のように、会場の案内役から空港の出迎えまで笑顔で歓迎してくれた

ユースの可能性を実感

ユース・アセンブリーに参加

広島YMCAユースリーダー 岡茂 夏奈さん（大学4年）

私はもともと国際交流に関心があったのですが、大学入学と同時にコロナ禍で、どこにも行けなかったため、今回は絶対行きたい!と思って参加しました。

ユース・アセンブリーではまず参加者同士でそれぞれの活動紹介をしたのですが、貧困対策や女性支援に関わるインドの学生の話など、とても新鮮でした。分団では、韓国の学生たちと「生きづらさ」や将来の不安について共感し合う場面もありました。

フィリピンの方による基調講演では、たとえば気候変動や子どもの人権といった世界規模の課題に対して「ユースこそが解決のカギを握っている」という話を聞きました。「まずは世界の人たちとコミュニケーションをとることから始めよう」と、世界の仲間とつながりながら、自分の場所ですることをしていく。小さくてもい

いから一歩を踏み出していくことで世界は変えられる。ユースには力がある。そんな力強いメッセージに会場の皆も感動していました。

その後私は体調を崩し、本大会には出られなかったのですが、大会後には回復して一人でボンベイYMCAを訪問。今年8月に広島YMCAのピースセミナーに参加してくれた仲間たちと再会することができました。来春からは社会人になりますが、YMCAで出会った仲間とのつながりを大切に、広島でピースセミナーを広めるなどできることに取り組んでいきたいと思っています。たくさんの方の勇気や宝物をもらった大会でした。



交流会で「二人羽織」を披露した岡茂さん

各国の課題を知り、次の一歩へ

ジェンダー平等フォーラムと大会に参加

京都大学YMCA 野下 智則さん（修士1年）

私は大学でジェンダー問題を研究しているため、「ジェンダー平等フォーラム」に参加しました。各国の取り組みが紹介された中で特に印象に残ったのは、インド・マドラスYMCAの初の女性管理職の発題でした。この方は管理職試験に合格したのですが、「女性が管理職になったらYMCAはダメになる」と会員関係者がYMCAの前で反対デモをするなど、激しいパッシングがあったとのことでした。さらにインドでは、女性の参画に貧困問題も絡んでいて、高所得者でなければ社会的発言権が得られないとのこと。そんな葛藤を抱えた国でのフォーラムが開催され、実情が発信されたこと自体、画期的な点だと思われました。

ほかにも、アジア全体やキリスト教が内包する家長長制の問題や、韓国YMCAが南北統一を求める市民運動を支援していることなど、なかなか自分の暮らす国や社会からの視点では十分に捉えられない、解決の難しい発題を聞いたり、休憩時間にインドネシアの人と安全保障問題について話し合ったり。たくさんの方の貴重な経験ができました。



大会は2度目という野下さん（写真右から2番目）「前回より積極的に発言できました！」

大会では今後、Vision2030に取り組んでいくことが確認され、ジェンダー正義に対する文書も採択されました。国によって社会状況が異なるため、世界で一律の数値目標を掲げることは無理がありますが、4年後、世界のYMCAでこんなことが達成できたんだと、各国の仲間と一緒に喜び合えたらいいなと思います。

「Vision2030」へ、仲間と取り組む

ユース・アセンブリーと大会に参加

横濱YMCA職員 飯野 汐音さん

YMCAの職員になって5年目。ずっと国際交流にあこがれていたため、今回はまたとないチャンスだと思い参加しました。最初に参加したユース・アセンブリーでは、各国のユースボランティアや職員など約130人が集まり、市内観光をしたり、自分たちの地域の課題を共有したりして、交流を深めました。ホストとして迎えてくれたインドのYMCAの皆さんは私たちが楽しめるようにと、バスの中でも大音量で音楽をかけて、バスが揺れるかと思うくらいに踊ったり歌ったりして盛り上げてくれました。英語が母国語ではない参加者が多かったため、言葉に詰まると「こういうこと？」と誰かが助け舟を出してくれるなど、お互いに理解し合おうとするフレンドリーな雰囲気もありました。YMCAらしい交流の3日間で、たくさんの方の仲間ができたことは本当にうれしいことでした。



インドYMCAのスタッフと語る飯野さん

続く大会では、新しい役員が選出され、ジェンダーに関する提案書が採択されるなど、YMCAというグローバルな組織を目的の当りにしました。世界YMCA同盟のカルロス・サンヴィー総主事も登壇され、Vision2030についての期待を熱意をもってパワフルに語られました。私はこれまでVision2030を文章で読んだことしかなかったのですが、各国からも次々と取り組みが紹介され、世界中の仲間たちが一緒にこのビジョンに向かっていくんだということを実感しました。私もその一員として、大きなバトンを受け取った気がしました。

学生YMCA夏期ゼミナール 「出かけよう。出会おう。そしてその次へ！」

9月8日から11日にかけてYMCA東山荘に全国各地から学生が集い「第49回全国学生YMCA夏期ゼミナール」が開催されました。「出かけよう。出会おう。そしてその次へ！」を



テーマに12名の学生とOB/OGが集い、4日間にわたる学びと交流の時間を過ごしました。

講師はフリージャーナリストの西谷文和氏、特定非営利活動法人Tansaの中川七海氏と辻麻梨子氏で、現役ジャーナリストとして、学生たちを取り巻く社会・世界といかに向き合い、考えていくべきかを彼らの豊富な経験と合わせ、現代社会を生きていくための知識や知恵を伝えていただきました。

また、初めて聖書に触れた学生も日頃から聖書研究に参加する学生も共に聖書の言葉に触れ、それぞれの頭が痺れるほど考えて共有し合った聖書研究や、地域や学年を超えた交流会、学生たちが自分で決めたテーマを発表し合う自主ゼミナールなど、夏期ゼミ定番プログラムが満載の4日間でした。

参加人数が少なく、少し寂しいという声も学生からはありましたが、2年連続で参加した学生たちから「少人数だからなのか、去年より濃密な時間を過ごせた」という声も多く聞かれるなど、夏期ゼミで大切な仲間と出会えた喜びを感じる場面もありました。

開催前後には学生たちが自主的にオンライン会議を持つなど、時代の変化に付合する新しい動きが見えた点なども含め、今後の期待につながる夏期ゼミでもありました。

日本YMCA同盟 石橋 英樹

2023年度世界YMCA/YWCA合同祈禱週

2023年11月12日(日)～18日(土)

Seeds to Blossoms:
テーマ Cultivating Hope and Love in Solidarity
「種から花へ～手を取り合って、希望と愛を育てましょう」

世界中のYMCAとYWCAが毎年11月、一つのテーマについて学び、祈りを共にする「合同祈禱週」。1904年から続くこの週間は今年度、11月12日(日)～18日(土)に実施されます。

テーマは「種から花へ」。種をまき、手入れし、成長を見守り、収穫するという営みのように、私たちはコミュニティーに根を張り、共感の輪を広げ、希望と愛を育ていきたい。そんな願いがこめられています。

期間中、各地のYMCA/YWCAでは祈禱会が開催されます。詳細はお近くのYMCAへお問合せください。

【日々のテーマ】

*和訳は仮のものです。

- Day 1: 成長への希望をもって、土壌を養う
- Day 2: 花咲く未来のために、連帯の種をまく
- Day 3: 恵みをもたらす環境になるよう、注意深く手入れする
- Day 4: 強い協働関係を作り出す、成長の守り人
- Day 5: 変革を形作るしなやかさを育むための「剪定」
- Day 6: 愛とやさしさをもって、一致の果実を収穫する

詳しいブックレットをご覧になりたい方は、
日本YMCA同盟 (Tel 03-5367-6640) へお問い合わせください。



ウクライナから日本へ

徴兵前、避難する少年たち

ロシアの軍事侵襲から1年半が過ぎ、2回目の暑い夏が過ぎました。最初は「一時的な避難、長くても数カ月」と考えていた人たちも、「戦争はいつ終わるかわからない」「国に帰っても、元通りの生活は送れない」と、大人は本格的な



戸別訪問の様子。日本YMCA同盟は東京都と協定を結び、ニーズ調査を続けています。

職探し、子どもたちは進学の準備も始めなければならなくなってきました。年齢にかかわらず、日本語の学習を一日に何時間もこなしています。

侵襲当初、避難してくる人たちは、母親と子ども、老夫婦が大半でした。それが徐々に10代、20代が一人で来日避難するケースが増え、東京では全体の半数近くになっています。ウクライナでは男性は18歳から徴兵があり、召集されなくても、国外に出ることができません。それもあって、徴兵が目前に迫る16～17歳の子どもを持つ両親が、「子どもだけでも」と国外へ避難させようとするケースが多いのです。このような年齢の子どもがたった一人で、知人程度のつながりを頼って1万キロ離れた日本で、新しい生活を始めています。本来なら大学進学や将来の職業を考える年頃です。親しくなると「宇宙工学の勉強がしたい」とか、「アニメーションの声優になる」など夢を語ってくれます。

戦争によって、人生が想像もしなかったほど変わってしまった若者たち。YMCAは、一人ひとりに心を寄せて、伴走を続けて行きます。

追悼 宮崎 幸雄さん (日本YMCA同盟名誉主事)

世界のYMCAで活躍した宮崎幸雄さんが9月10日、召天されました(90歳)。その志を継承したく、軌跡を振り返りました。



1969年、世界YMCA同盟によるベトナム戦争の戦後復興事業として、戦場から帰村する青年の社会復帰と農村の発展を支援するワーカーに志願し、ベトナム・サイゴン(現在のホーチミン市)へ赴いた。長引く戦争の中で7年間、村人と生活を共にし、養豚業や寺子屋小学校の設置へと駆け回った。1975年のサイゴン陥落後も村に残り、戦争の傷を背負ったベトナムの若者たちが自立を迫られる難しい局面に伴走した。その後、世界YMCA同盟の難民事業統括責任者となり、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) と協働した。

1985年に帰国後、日本YMCA同盟主事となり、アジア各国で誕生し始めていたYMCA運動をサポートした。同時に、東北アジアの国々の連帯を求め、ユース平和セミナーやワークキャンプなどを企画。平和教育にも努めた。1992年、韓国に対して日本のYMCAの戦争責任を公式に謝罪。この「歴史的責任を認識しつつ」平和の実現に努める姿勢は、「日本YMCA基本原則」(1996年改訂)へとつながってゆく。

1995年の阪神・淡路大震災では、ベトナムでの経験から「心のケア(トラウマケア)」にもいち早く着目したほか、世界各地からのボランティアを受け入れ、「ボランティア元年」を牽引。その後はNPO(非営利組織)法の整備、寄附文化醸成のために力を尽くした。

世界平和の実現のために、隣人愛をもって行動した生き方で、訃報にはアジア・世界各国から信頼と敬愛の念が寄せられた。

日本YMCA同盟 横山 由利亜